

カトリック

広島教区報

No. 134

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42
広島司教区内
TEL (082) 221-6017

司教メッセージ・じゃけえのう
教区創立100周年行事関連他
イエスさまマリアさまへの手紙・平和行事報告他
地区便り・海峡からの風・練成会報告
青少年・ひと粒

1〜3面
4〜7面
8〜9面
10〜11面
12面

教区創立百周年の諸行事と 閉年ミサを終えて

広島教区 アレキシオ 白浜 満 司教

閉年の行事とミサ

昨年の「教区の日」からわたしたちは、1年間をかけて、教区創立100周年を記念してきました。そして、今年の「教区の日」に

あたる9月18日、最後の講演会と閉年ミサを無事に終えることができました。教区創立100周年を締めくくる講演会では、イエズスの川村信三神父様から「日本におけるこれからの福音宣教」というテーマでお話を伺い、貴重な示唆をいただきました(4頁を参照)。

ある釜山教区の孫三錫司教様とインファンタ教区のベルナルディーノ・コルテス司教様、さらには、ベトナムのソノロック教区の司教総代理の御臨席により、ローマの教皇様との絆の中で、とくにアジアの教会と連帯しながら、「ともに歩もう」としている広島教区の姿が感じられる荘厳なミサとなりました。

「メッセージの本文」

教皇フランシスコは、本日、創立100周年を祝う広島教区のアレキシオ白浜満司教、司祭団、修道者、信徒の皆さんに対し、心からの祝辞を送ります。



レオ・ポツカルディ大司教と孫三錫司教

教皇フランシスコは、この記念が、神の民である広島教区という皆さんの心を、霊的に新たにし、福音宣教に対する熱意を増し、また不安定な現代において、教区の皆さんがより多くの人々のために、「平和の預言者」・「希望の伝達

者」としての召命に応える良い機会となるように、お祈りしています。

わたしたちの母であり、平和の元后である聖マリアのとうとい取り次ぎに、教区のすべてを委ねて、教皇フランシスコは、わたしたちの主イエス・キリストにおける豊かな喜びを約束する祝福を与えます。

2023年9月18日
バチカンより
代筆エドガル・ペナ・パラ



教区創立100周年閉年ミサ 白浜司教と書き写し聖書

この1年間の教区創立100周年の恵みが、これからの福音宣教へと向かう力となることを願っています。また閉年ミサには、前駐日ローマ教皇大使レオ・ポツカルディ大司教様をはじめ、姉妹教区で

教皇様からのメッセージ

いつくしみ深い神様への感謝のうちに、新しい一歩を踏み出して行くために、教区創立100周年を機会

これからの歩みのための指針

フランシスコ教皇様は、創立100周年という記念が、①教区民の心を新たに、福音宣教に対する熱意を増し、②「平和の預言者」・「希望の伝達者」としての召命に応える良い機会となるよう願っておられます。この「平和の預言者」という召命は、2006年に当時の教区長、三末篤實司教様の「司教宣言」をもって打ち出された「平和の使徒となる」という言葉によって見事に表現されていると思



教区創立100周年閉年ミサ 青年たちからのメッセージ

ます。福音宣教に熱意を注ぎ、現代社会の中で平和の使徒として奉仕するとう、これら二つのことから、わたしたちがこれからの教区の歩みにおいて、力を入れて行くべき重要なポイントではないかと思

三姉妹教区の会議

9月18日の閉年ミサの後、姉妹教区であるインファンタ教区、釜山教区、広島教区の合同の会議が開かれました。その中で、2000年8月6日に姉妹教区の絆を結んだその当初の主な目的が世界平和のために、アジアの三つの教会が連携することであったことを再確認することができました。これまで唱えてきた「三姉妹教区の祈り」の中に、そのことがよく示されています。そこには、とくに第二次世界大戦で日本軍がもたらした残酷な被害への深い反省の上に立ち、和解と交わり

を求めて希望の扉を開いて行こうという願いが込められています。改めて、「三姉妹教区の祈り」を紹介し

「三姉妹教区の祈り」(旧)

すべての人の父である神よ、和解と交わりを求めて希望の扉をたく、教会の祈りを聞き入れてくださ

い。インファンタ・広島・釜山の各教区が、互いに姉妹として、喜び、痛み、希望を分かち合い、ともに歩むことができるよう、愛の霊を注いでください。キリストの福音の力がアジアの教会を通して働き、世界に平和と一致をもたらすことができま

になりました。

「三姉妹教区の日」

また、三姉妹教区の日を、広島原爆の日(8月6日)以後の最初の主日にする話も話し合われました。広島教区においては、「姉妹教区の日」のミサ献金の半額をインファンタ教区への援助金、残りの半額を三教区交流の活動のために使用させていただく申し合わせをしています。広島教区が、インファンタ教区と釜山教区と連携しながら、世界に平和と一致をもたらす「平和の預言者」・「希望の伝達者」となる召命に応えることができるよう、今後とも、皆さんのお祈りとご協力を、よろしく

世界代表

司教会議について

「ともに歩む教会のため」交わり、参加、そして「教区」というテーマで、2021年10月から教区ステージ、続いて大陸ステ



三姉妹教区(インファンタ・釜山・広島教区)会議の参加者

ジでの準備が行われた世界代表司教会議(世界シノドス)の第16回通常総会は、最終ステージとして10月4日から29日に第1会期が、開催されています。また来年2024年10月に第2会期が、予定されています。今後公布される世界シノドスの成果文書をよく学びながら、わたしたちも創立100周年後の教区や小教区のあり方の指針として行きたいと思



教区創立100周年閉年ミサ

11月23日の
「教区ひろば」について

教区創立100周年にあたる今年2023年度は、その準備段階であった創立90周年から打ち出されていた長期目標「チャレンジ 新しい福音宣教―わたしをお使いください―」の最終年で、サブテーマが「わたしの召命とあかし」となっています。このサブテーマに基づく分かち合いを行うため、11月23日の午後、「教区ひろば」が開催されます（5面参照）。これは、教区創立100周年

（「教区ひろば」の開催要項は、5頁を参照）

「2020教区代表者会議」（教区シノドス）後の司教教書（要約版）の7頁で提言されていたものです。この「教区ひろば」は、代表者の選出による会議ではなく、開かれた形式で希望者はだれでも参加することができま。ただし、時間の制限があるため、分かち合っていたく人を地区ごとに事前に選定して、発表の準備をお願いすることになっています。また、今回の「教区ひろば」の企画が、伯雲協働体で毎年実施されている「永井隆博士を偲んでささげる平和祈願ミサ」の日と重複してしまつたことをお詫びしたいと思

を迎える前に開催された「2020教区代表者会議」（教区シノドス）後の司教教書（要約版）の7頁で提言されていたものです。この「教区ひろば」は、代表者の選出による会議ではなく、開かれた形式で希望者はだれでも参加することができま。ただし、時間の制限があるため、分かち合っていたく人を地区ごとに事前に選定して、発表の準備をお願いすることになっています。また、今回の「教区ひろば」の企画が、伯雲協働体で毎年実施されている「永井隆博士を偲んでささげる平和祈願ミサ」の日と重複してしまつたことをお詫びしたいと思

じゃけえのう

「ひとつになろう
キリストのうちにみな」

私達の呉教会には『ユニティ』という多国籍グループがあります。

「違いがあっても聖霊はみんなをひとつにしてくれる、ひとつになろう」との思いから名づけ、「小さな身近なことからはじめよう」と、毎月第3日曜日のミサ後、バート神父様を



分かち合い風景

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね!」という意味。

はじめ、ベトナム人、フィリピン人、韓国人、日本人（誰でも）が集まり、様々な課題について、ベトナム語、英語、タガログ語の通訳を交えながら（通訳は日本語のわかる先輩実習生や永住者）「分かち合い」をしています。

テーマは教会内の課題を中心に、時には在留資格や労務問題、扶養控除申請の説明、年金相談、心配事などなど、いろいろ話し合っています。

毎回、美味しい手作りお菓子（女性の会の方）を食べながらリラックスした雰囲気の中、いろんな言語が飛び交いながら、楽しくおしゃべりしています。

ミサで会うだけではわからない思いを聴かせてもらう貴重な機会でもあり、お互いの意見を聴き合っていると、いっそう親近感もわき尊敬の思いも深まっています。



技能実習生のミーさん

きます。

神様や教会が一番大切との揺るぎない気持ちに感銘を受けたり、家族への思いの深さに感動したり、国による考え方の違いに驚き愉快になつたり、日本でのリアルな生活が垣間見えたり、みなさんのパワーとあたたかさのおかげで、いつも発見がいっぱいです。

いろんな国の方々とともに集い、違いがあつても安心して本音が話せる、お互いの思いを聴き合える、そこから新しいものがうまれる、そんなつながりの場所でありたいです。
（呉教会 榎田 初美）



教区創立100周年閉年行事 報告



まだまだ残暑が厳しい9月18日(月・祝)、世界平和記念聖堂で教区創立100周年記念行事の講演会と閉年ミサが行われた。

2022年9月18日の米子教会での閉年ミサから始まり、1年間かけて100周年を記念し、その締めくくりにして閉年ミサがささげられた。当日は、来賓の司教様方をはじめ400名を超える多くの司祭・修道者・信徒が集い盛大に行われた。

まず11時から、イエズス会の川村信三神父による講演会が始まった。川村神父は、上智大学の文学部史学科の教授として、日本と西欧の文化の交流や、日本キリシタン史の分野での研究を続けておられる方である。創立100周年期間中の講演会として、①援助修道会の三好千春シスターによる「広島教区設立までの日本のカトリック教会史」(2022年9月19日・オ



川村信三神父

ンライン)、②教区百周年史編纂委員会スタッフによる「広島教区創立百年の歴史」(2023年4月29日・山口サビエル記念聖堂献堂25周年記念)を締めくくる3回目となる今回の講演は、これまでの歴史を踏まえて、「これからの日本の教会における福音宣教について」講演を頂いた。

キリシタン時代と明治の開国後の宣教は、信徒中心の「慈悲の業」、宣教師だけに頼らない教会共同体、神と結ばれ、キリスト者としての誇りと社会的使命感に燃えていた。しかし、次第に貧しい人と病者のための宗教という印象から脱するため、学校教育や有力者、影響力のある人への働きかけを重視した宣教へ変化していく。「今考えることは、信徒数を増やすことではなく、キリストの魅力を伝える宣教や社会貢献を意識した信仰共同体でしょう。私たちが自発的、自立的に何をなすべきか、歴史を思い起こすことでヒントになれば」と私たちに指標を示された。

講演会に続いて、12時50分から閉年ミサが行われた。ミサ前に、献金は、今後の福音宣教活動のため、特にウクライナの復興支援のための寄付として呼びかけられた。ミサは、白浜司教による共同司式の参列者の紹介から始まった。ことばの典礼では、2018年から実施した「聖書写経リレー」で完成した聖書を用いて福音朗読が行われた。説教で白浜司教は、次のような内容の話をされた。「100年前の信徒数1200名が、2022年の統計で1万9200名になった。もつとも多かつた2003年(2万1344名)から、少子高齢化の波が教会にも押し寄せている。信徒の減少や教会離れ、司祭や修道者の召命の減少、教会財政のひっ迫など種々の問題に直面している中、本日のミサの福音(ヨハネ21:1-14)は、どんな逆境にあっても福音宣教の使命を果たしていくよう促す神さまの温かいメッセージである。また私たちが福音宣教の使命を果たすために重要な心構えとして、①自ら私たちのところに来てくださるイエス様の温かさに触れること、②イエス様の温かさに触れた



閉年ミサ 世界平和記念聖堂

私たちが温かい教会共同体を築いていくこと、③日常生活の中で私たち一人ひとりに語りかけておられるイエス様のホットな(温かい)ことばに耳を傾けること」であると論じた。そして結びとして、「現代社会の様々な問題に直面していることは、人々の心や文化にイエス様の福音を根付かせていくために乗り越えなければならぬ試練である。100周年の節目に新しいスタートを切る決意を新たにしよう」と締めくくった。共同祈願は、それぞれの意向で伯雲協働体・韓国語・タガログ語・ベトナム語・山口島根地区・岡山鳥取地区・広島地区で祈りが



閉年ミサ 世界平和記念聖堂

行われた。閉祭の中で祝賀式が行われた。来賓の方から祝辞を頂く前に、まず来賓の方々に感謝を込めて子どもの侍者が花束を渡した。祝辞は前教皇大使のレオ・ボッカルディ大司教がご自身の挨拶をされた後、教皇メッセージを代読された。続いて韓国釜山教区の孫三錫司教、フィリピンインフアンタ教区のベルナルディーノ・コルテス司教から祝辞

を頂いた。更に大阪高松大司教区の前田万葉枢機卿の祝辞が続いた。前田枢機卿は、「川村神父の講演、白浜司教の説教を聞きながら、『天高し 広島教区百寿祭』とお祝いと希望の句を詠みます」と得意の俳句を披露した。祝辞に続き、白浜司教から感謝のこたばが述べられた。祝賀式の締めくくりとして、これからの広島教区の福音宣教の担い手となる青年たちか

らのメッセージが発信された。青年たちは「ともに歩むあたたかさのある教会を目指そう」との横断幕を掲げ、「これから100年の広島教区のために、今回のワールドユースデーの素晴らしい経験を、責任を持って伝えていきたい」と力強く宣言した。そして、派遣の祝福、記念撮影が行われた後、派遣のこたばが告げられ、全体で2時間半におよぶミサが閉幕した。ミサ後は、広島カトリック会館1階に茶話会会場が準備され、多くの参加者がのどを潤しながら、歓談の時間を過ごした。茶話会会場には、「聖書写経」「こども企画・イエスさま、マリアさまの手紙」の作品も展示されていた。当日の「講演会」「閉年ミサ」の映像は、教区公式ホームページからYouTubeで見ることが出来る。

(100周年記念行事実行委員会)



マリア大聖堂 ミサ設立式に参加した司教団・司祭団・助祭団・侍者

大阪高松大司教区

設立式

教皇フランシスコは、大阪と高松の両教区を統合し、新たに大阪高松大司教区を設立しました。また、教皇フランシスコは、現大阪大司教区大司教のトマス・アクイナス前田万葉枢機卿を新大司教区の初代大司教に任命し、2023年10月9日(月・祝)13時に大阪カテドラル聖マリア大聖堂で大阪高松大司教区設立式とトマス・アクイナス前田万葉大司教の就任式が行われました。会場には、大阪近辺だけでなく四国から大型バス2台に乗り合わせ多くの人が集まり、共に感謝のミサが捧げられました。

「教区ひろば」のご案内

場所：世界平和記念聖堂

11月23日(木・祝)

◆13時 報告会

- ①「わたしの召命とあかし」・・・各地区
- ②「ワールドユースデーリスボン大会」
- ・・・青年活動企画室
- ③「世界代表司教会議(世界シノドス)」
- ・・・白浜司教

◆15時 派遣ミサ

ミサの中で、2022

・2023年の金銀祝セレモニーを行います。

教区の宣教司牧目標である「チャレンジ・新しい福音宣教」2023年度のサブテーマは、「わたしの召命とあかし」です。私たち教区民一人ひとりが、それぞれの過去の10年間を振り返って自分の召命を見つめていただくため、また互いに共有していただくための機会として「教区ひろば」を開催します。当日は、動画配信も予定しています。

第1回広島教区在日ベトナム青年大会 (広島教区創立100周年記念行事)

テーマ:「キリストのうちに一致しよう」

ベトナム青年大会



広島教区創立100年出合いの中で

2023年8月26日〜27日、広島教区創立100周年行事の一貫として、実行委員会とスタッフの呼びかけに応え、500人ぐらいの若者と多くの神の民のメンバーが倉敷の清心中・高等学校に集まり、第1回ベトナム青年大会が開催されました。始めから最後まで大会を見守り、成功へと導き、皆さんの心にいい印象を残してくださいました神様に感謝致します。

この第1回大会は、広島教区創立100周年を記念し、またワールドユースデーの精神とテーマも合わせ開催され、教会の中で共に交わりを持つて一致し、強めるもの



と言え、キリストのうちに一つになるものです。一致の精神を實踐し、キリストにあつて一つとなるよう招かれています。参加者は多国籍、多文化、多言語、多地域、様々なグループから集まりました。嬉しい事に、大会はそれぞれの協力があり、共に準備し、そのすべてが多文化的で多様な状況を生み出しました。

1泊2日の短い時間でしたが、広島教区創立100周年と若者たちに対する神の民全員の思いを表すものとなりました。この美しい思い出が皆様の心に深く残ることを期待しており、皆様のご協力により、神の民の全員が神と教会が望む一致を体験することになりました。広島教区が100年を経て、新たな100年の歩みを始めるにあたり、その先には常に神の民のすべての方々が一致の精神で協力し、教区を建設するための継続的な努力が必要です。

この大会は、全員の努力、家族、地域会社、小教区、静かに支援する企業、



母親、姉妹、協力者の協力によって成り立つており、協力者の参加も大会の成功に貢献しました。アレキシオ白浜司教様をはじめ、神父様方、修道士と修道者、実行委員会の兄弟姉

妹、スタッフ全員、班長、副班長、そして熱心に働いてくれたすべての協力者に心から感謝致します。

改めて、大会前、大会中、大会後に多くの任務を準備してくださいました皆様の静かな犠牲に敬意を表し、心よりお礼申し上げます。

聖母マリアと聖ヨセフの取り次ぎを通して神様に願ひし、常に皆様を守り、豊かなお恵みが注がれるように祈り致します。私たち全員が次の大会を一緒に楽しみに待つております。皆様、また次の大会でお会いしましょう。

青年大会実行委員会一同

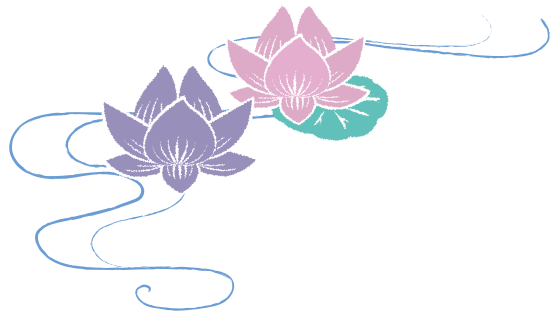


集まっているおよそ500名のベトナムの青年が集まった。

KỶ NIỆM 100 NĂM THÀNH LẬP GIÁO PHẬN HIROSHIMA

Ngày 26 và 27 tháng 8 năm 2023, hưởng ứng lời mời gọi của ban tổ chức, gần 500 bạn trẻ và nhiều thành phần dân Chúa đã quy tụ về ngôi trường trung học dòng Đức Bà Truyền Giáo tại Kurashiki tham gia đại hội giới trẻ Việt Nam lần thứ nhất, vừa diễn ra trong giáo phận Hiroshima nhân dịp kỷ niệm 100 năm thành lập giáo phận. Tạ ơn Chúa đã luôn gìn giữ và hướng dẫn đại hội được diễn ra thành công tốt đẹp, đã để lại nhiều dấu ấn đẹp trong lòng mọi người.

Có thể nói đại hội lần thứ nhất này diễn ra trong hoàn cảnh đặc biệt, vừa kỷ niệm cột mốc 100 năm ngày thành lập giáo phận Hiroshima, vừa kết hợp tinh thần và chủ đề của đại hội giới trẻ toàn thế giới, vừa cùng nhau củng cố sự hiệp thông qua việc sống hiệp hành và nên một trong Đức kytô. Đại hội lần thứ nhất này được mời gọi sống tinh thần hiệp nhất, nên một trong Chúa Kytô. Các tham dự viên được hội tụ bởi nhiều thành phần dân Chúa khác nhau, đa văn hóa, đa quốc gia, đa ngôn ngữ, đa vùng miền và đa dạng tính. Đại hội được sự cộng tác chuẩn bị từ nhiều người, nhiều phương



diện khác nhau, tất cả đã tạo nên một bức tranh đa văn hóa và đa sắc màu.

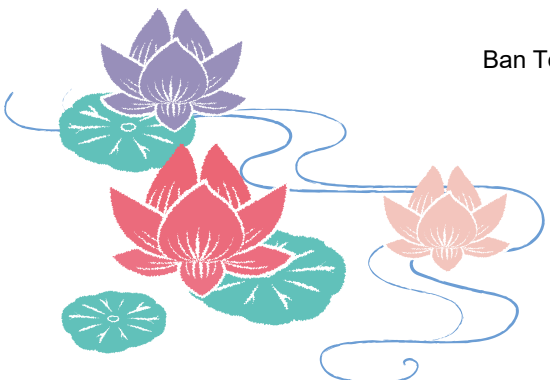
Hai ngày một đêm tại đại hội tuy ngắn ngủi nhưng đã nói lên tất cả tâm tình của mọi thành phần dân Chúa dành cho cột mốc kỷ niệm 100 năm thành lập giáo phận Hiroshima và dành cho giới trẻ chúng con. Mong rằng những kỷ niệm đẹp đó, sẽ đọng lại trong tâm trí và ký ức của tất cả mọi người một cách sâu sắc; qua sự cộng tác của mọi người, mọi thành phần dân Chúa chính là bức tranh nói lên sự hiệp hành mà Chúa và Giáo Hội mong muốn. Giáo phận Hiroshima bước qua 100 năm và mở ra hành trình 100 năm mới, phía trước luôn cần sự cộng tác và làm việc liên lý của mọi thành phần dân Chúa trong tinh thần hiệp nhất xây dựng Giáo Phận.

Hai ngày đại hội là sự nỗ lực của tất cả mọi người, sự cộng tác của các gia đình, các cộng đoàn, các giáo xứ, các công ty âm thầm hỗ trợ, các mẹ, các chị và các cộng tác viên từ xa đã góp công góp sức cho sự thành công của đại hội. Chúng con xin thành kính cảm ơn Đức Cha Alexis Shirahama, quý Cha, quý tu sỹ nam nữ, các anh chị trong ban tổ chức, các trưởng phó ban, các đội trưởng, đội phó và toàn thể các cộng tác viên đã làm việc cách tích cực nhất, hoàn thành tốt và xuất sắc công việc của mình đã được giao phó, giúp cho đại hội được diễn ra tốt đẹp.

Một lần nữa chúng con xin trân trọng và chân thành biết ơn anh chị em đã âm thầm hy sinh chuẩn bị nhiều công việc trước- trong – và sau đại hội. Xin Thiên Chúa qua lời bầu cử của Mẹ Maria và Thánh Cả Giuse, luôn che chở và trả công bội hậu cho tất cả quý vị và nguyện xin cho tất cả chúng ta cùng nhau hướng về kỳ đại hội tiếp theo. Hẹn gặp lại tất cả các bạn trong kỳ đại hội tiếp theo.



Ban Tổ Chức Đại Hội Giới Trẻ



「イエスさまマリアさまへの手紙」参加ありがとうございました。

【応募総数】 1481通

幼児の部 827通

小学生の部 370通

中学生の部 284通

【参加園、学校、小教区】
幼児の部

聖母幼稚園（広島）、
マリア幼稚園（光）、
広島マリア幼稚園、福
山暁の星幼稚園、夕
日ヶ丘聖母幼稚園（浜
田）、聖心保育園（三
原）、周南小さき花幼
稚園、岡山聖園幼稚
園、岡山聖園マリア幼
稚園、認定こども園海
星幼稚園（倉敷）、祇
園教会、防府教会、幟
町教会、岡山教会、呉
教会

小学生の部

福山暁の星小学校、認
定こども園海星幼稚園
（倉敷）、防府教会、
玉島教会、祇園教会、
三篠教会、福山教会、

岡山教会、呉教会、幟
町教会

中学生の部

萩光塩学院中学校・高
等学校、松徳学院中・
高等学校（松江）、
清心女子中学校（倉
敷）、清心女子高等学
校（倉敷）、ノートル
ダム清心中・高等学
校（広島）、祇園教会、
岡山教会

【選考者】

白浜満、瀧井英昭、百
瀬文晃、片柳弘史、荻
喜代治、服部大介、大
西勇史、久保裕己、三
宅聖子、小濱富美代、
田中靖、神垣しおり

【受賞者】

山下はなか
（認定こども園海星幼
稚園／倉敷）
木村優里
（福山暁の星小学校）
熊谷優芭
（萩光塩学院中学校・
高等学校）

平和行事2023報告

「声をあげよう、核兵器で
平和はつけれない！」

が身近にある教区である。

5月から新型コロナウイルスが5類に移行したことによつて、4年ぶりに広島教区外からも参加できるようになり、聖堂内には人が戻つてきた。6日が日曜で、小教区を預かる神父様方の参加が少なくなったこと、コロナ感染防止のため宿泊を制限したこと、まだ感染が収まつていないことなどから、教区外からの参加はコロナ前に比べると少数にとどまった。なお、参加できない方々のため、オンライン配信を併用した。

ためのミサの後、ポーランドでウクライナ難民支援活動を行っている兵頭博さんによりウクライナの若者たちとオンラインで結んで講演していただいた。そして午後からは、流川教会でプロテスタントとの合同でキリスト者平和の集いがあつた。

9日は、瀧井神父司式により長崎原爆犠牲者のためのミサを執り行った。
（平和行事実行委員長 栗栖 徹）

今回のテーマは、ロシアによるウクライナ侵略と度重なる核兵器使用の威嚇を背景に「声をあげよう、核兵器で平和はつけれない！」とした。米国の原爆開発の中心となつたロス・アラモス研究所のあるサンタフェ大司教区と原子力潜水艦の基地があるシアトル大司教区からの2名の大司教様と巡礼団の皆さんをお迎えした。どちらも核兵器



（前列）サンタフェ大司教区とシアトル大司教区からの巡礼団

教区創立100周年記念行事実行委員長賞

- 富田柚巴
- (聖母幼稚園／広島)
- 藤田真奈
- (夕日ヶ丘聖母幼稚園卒園／浜田)
- 小崎 碧
- (秋光塩学院中学校・高等学校)

入賞

- 積山凛 (聖心保育園／三原)、阪田百花 (聖母幼稚園／広島)、桑田隼人 (広島マリア幼稚園)、木村佳奈 (マリア幼稚園／光)、杉山生真 (岡山聖園幼稚園)、中村栞野 (福山暁の星小学校)、福世琳子 (福山暁の星小学校)、山田真理恵 (福山暁の星小学校)、永谷萌々菜 (福山暁の星小学校)、石山ゆみ (祇園教会)、梶原佐保 (三篠教会)、ホアンゴックバオチャン (幟町教会)、堀田亜美 (秋光塩学院中学校・高等学校)、仙田愛華 (秋光塩学院中学

- 校・高等学校)、今西心瑚 (松徳学院中学校・高等学校／松江)、岡本姫依 (清心女子高等学校／倉敷)、中鶴さくら (清心女子高等学校／倉敷)、佐藤亜衣 (清心中学校／倉敷)、昌木結 (祇園教会)

入選

- 大内涼子 (福山暁の星小学校)、田中結菜 (ノートルダム清心中・高等学校／広島)、水落紫音 (呉教会)、小藪優太 (岡山教会)、蔵 櫻 (福山教会)、真田葵 (玉島教会)、今徳志誠 (防府教会)

広島教区百年の

歩みをたどる (七)

今日私たちが与るミサでは、ごく当たり前の光景になっている事だが、ミサの在り方も第2バチカン公会議の典礼憲章公布(1963年)により大きく変化していった。

典礼憲章公布を受け、「ミサ典礼に関する司牧指針」の発表(1965年)。これにより、対面式ミサや自国語ミサへの流れが進んだ。「日本語ミサ典礼文」の認可(1968年)。跪く↓合掌し頭を下げる〈姿勢変更〉が発表された(1969年)。

①対面式ミサ・国語ミサ

日本語の典礼文認可により、各地のミサもラテン語から日本語へ徐々に変わっていった。

従来は背面式ミサで、司式する司祭は信徒に背を向けて行っていたため、祭服は背に模様があるものが多かったという。ミサも司祭の行い(司祭の背中しか見えないから、細かくは何をしているかよくわからな)を見守るだけ：から、参加し信徒も行動するミサへと変化していった。

対面式ミサ実施のため、山口では祭壇を信徒の献金で新たにしたという(1972年)。

②典礼聖歌

ミサの国語化に伴い、それまで使用していた「カトリック聖歌集」に代わるものとして作成。第1集が(1968年)発行され、第9集まで続き、合本

(1980年)。以後既に40年が過ぎ、最早なじみ深い当たり前の光景になっている。

③聖書と典礼

毎週ミサで使用するこのリーフレットそのものは、公会議以前(1961年)に創刊されたが、その後随時充実していき、外国語版も現在では英語版、スペイン語版、ベトナム語版と揃ってきた。オリエンズ宗教研研究所(淳心会)の発行。

公会議精神に則り、これによって信徒のミサ参加意識が進んだことと思う。

④イエズスからイエスへ

表記統一！教会一致推進のため(1988年)、臨時司教総会の中で決められた。なお、司牧上の配慮で典礼上イエズスと言うのは構わない。どの発音が正しいというものでなく、どう唱えれば救われるという話でもない。信仰の本質とは関係ないこと。これも公会議の「エキュメニズムに関する教令」(1964年)からの流れ。

(教区百年史編纂委)



地区便り

広島地区

＊広島教区創立百周年記念
アレキシオ杯 ボウリング
大会



ボウリング大会の様子

去る9月2日(土)に広島地区教会学校リーダー大会主催 広島教区創立百周年記念アレキシオ杯ボウリング大会が広電ボウルにて開催されました。参加者は幼児〜高校生の子ども35名と大人13名の合計48名。白浜司教の始球式でゲーム開始となりました。ボウリングは初めてという子どもたちや、昔取った杵柄で腕を振るう大人たちの歓声と嘆声飛び交い、大変盛り上がった楽しいゲームとなりました。



翠町教会 (左) 伊藤神父

その後、翠町教会を訪問。ウエルカムアイスクリームで暑さを和らげ、お御堂に入って浜村信徒会長のお話、伊藤神父・朴鍾錫神父のお話につき、リーダーの翠町トリビア〇×クイズで盛り上がり、楽しい時間を過ごしました。大変心のこもったあたたかい歓待を受けて皆大満足でした。この一日が子どもたちの心に残り、教会が居場所だと感じてもらえていれば幸いです。

69 海峡からの風

下関 労働教育センターだより

8月6日、9日に加えて、24日が将来に渡って記憶にとどめるべき日になってしまおうのだろうか…

いわゆるSDGsの目標に向かつて、政府も地方行政も企業・産業も市民も教育も一体となつて行動しても2030年には間に合いそうも無い状況である事はともかく、その中でも種々の媒体を通じて海洋プラスチック、マイクロプラスチック汚染が取り沙汰され、プラスチック削減の取り組みが行われている。それは、プラスチックは「長期間に渡って分解されない」、マイクロプラスチックは更に「生命連鎖の中で蓄積され、生命を脅かす」からである。

放射性物質の特徴はまさに同じで、むしろ影響が大きいと考えられるにも関わらず、今回、政府が「意志」を持って汚染水を海洋投棄した。3・11による放射能汚染は百歩譲って地震と津波と言う自然災害が大きな原因であるが、今回はその後の対策の失敗、不十分さの為、堪えきれずに海洋投棄に至った完全に「人間の仕業」で、ヒロシマナガサキに並べて考える必要がある。

トリチウムの濃度を基準として安全であると主張しているが、時間密度と総量にはほとんど言及していない。先の例で言えばマイクロプラスチックを大量の水で薄めさえすれば、どれだけでも一気に捨てて良いと言ふ事になる。プラスチックの総量削減に僅かでも貢献すべく人々は「買い物袋有料化」や「天然素材のストローの利用」等微々たる努力を重ねているのに、日本政府は原発を推進し、核のゴミをどんどん増やし、ゴミ捨て場に困って上関町などに打診しながら原発推進を行っている。まさに今回の汚染水と同じでやがて溢れかえってしまい、「二進も三進もいかず「薄めて捨てる」のか？

プラと核のゴミに対するこのダブルスタンダードをSDGsを学ぶ子どもたちはどのように見ているのだろうか…

※下関労働教育センターを支える会メールマガジンの原稿を一部改編しました。

※「ALPS処理水」海洋放出についての抗議声明(日本カトリック正義と平和協議会)をご参照ください。

(大城研司)

山口島根地区

*新しい「ミサ曲」研修会

山口島根地区信徒使徒職団体音楽部・信徒養成委員会共同企画による新しい「ミサ曲」研修会が、9月17日(日) 14時から山口サビエル記念聖堂において行われ、約100名の参加がありました。



山口教会 研修会の様子

平本義和神父様(長崎教区・長与教会)を講師にお迎えして、ミサ曲A、B、Cを指導していただきました。参加者の中には初めて歌うミサ曲もあったのではないかと思います。神父様の素晴らしい歌声に誘導され、皆様声高らかに歌わ

岡山鳥取地区

*岡山鳥取地区青年親睦会

この夏、約3年ぶりに、岡山鳥取地区の青年達で、親睦会を行うことができました。司教様やNDSUカトリック研究会の方々にもお越し頂き、24名の仲間達



座談会の様子

が岡山教会に集まりました。3年の間に新しい仲間も増え、初めて会う人もたくさんいました。御ミサと座談会では、司教様から私達全員の日常や信仰において、道標となるようなお話を頂きました。BBQでは、服部神父様の炭起こしと、全神父様の肉を焼く手がプロのようで、驚くばかりでした。

私は力及ばず混乱するばかりでしたが、皆様のご協力のおかげで、無事に開催

練成会 報告



8月11日から1泊2日で、練成会が祇園教会で行われました。久保神父様と広島教区の3人の神学生による企画です。参加者は子ども23名、リーダーは司祭神学生含めて12名。「平和を実現する人は幸いである」というテーマで、平和に関する世界の現状の説明を聴き、『わが命尽きるとも』の映画を観、

「どうしたら平和を実現できるか?」を考え、それを描きました。それぞれが祈りのこもった絵を描いていました!3つの班對抗のドッジボールはとても盛り上がり

ました。夕食はパーベキュー、たくさんいただきました。マシユマロを自分で焼いて美味しそうに食べていた姿も。司教様やいるんな方から

の差し入れがあり、お菓子や果物も豊富にいただきました。花火もしたし、日帰り温泉のお風呂に入れました!12日のミサで教区企画の『神様への手紙』の授賞式もありました。子どもたちにも練成会の感想を聞いたら「楽しかった」と言っていました。

食事や麦茶の準備と提供、片づけの労を取ってくださった祇園教会の皆さまに感謝申し上げます!大きな親戚のような教会の交わりの中で愛を受け、子供たちは温かい人に育ってくれ

ることでしょう。(シスター木村恭子)



練成会参加者

聖書通読写経キャンペーン
完了者紹介 (敬称略)

- ◆聖書通読を完了された方◆
No.017 川島 淑子 倉敷教会
No.018 鷲尾 優子 倉敷教会
- ◆教区内巡礼完了者◆
*お名前訂正
No.050 藤本 道生 祇園教会

青少年の活動

ワールドユースデーへ
行ってきました!

いつも青年たちのために、お祈りとご支援をありがとうございます。お待ちに待ったWYD（ワールドユースデー）リスボン大会へ、広島教区からは10人の



WYDに参加したメンバー

メンバーで参加してきました!

150万人が集結したりスポンの街では、そこかしこに、歌いながら国旗を掲げて歩き、写真を撮り合い交流を楽しむ青年たち。加えて、他の日本人グループと合同でのカテケージスや、教皇歓迎式典、夜の聖体賛美式、野外ミサなど、

各プログラムを通して、青年たちはそれぞれに、多くの学びとなる体験をもって帰ることができました。

10月より、各地区を回つての報告会が始まっています。11月23日（木・祝）に開催される「教区ひろば」でも、巡礼報告をさせていただく予定ですので、皆さまぜひお越しください。

そして! 100周年記念グッズはご好評いただき、最後の新作「トートバッグ」を制作しました。お求めの方は、どうぞお問い合わせください。
(青年活動企画室 益田)



信仰生活の本音



職町教会

ヨゼフ 伊藤 正広 神父

皆様に支えられ、今年の3月21日に司祭叙階の恵みをいただき、現在職町教会の助任司祭として働かせていただいております。司祭となって初めて見える事、信者さんから聞こえる声、そして司祭になると聞こえなくなってしまう声など、様々な変化を日々感じています。



色々な声を耳にしますが、「信仰生活に喜びを見いだせない」「神父の説教を聞いても、自分たちの生活とのつながりを見いだせない」という声を聞くと、心が傷みます。信仰には、神秘に属する部分があり、疑問のすべてを解決するのは難しいことだと思えます。しかし、やはり喜びの無い、建前の信仰というのは、虚しいものです。私たちは毎週ミサに与り信仰生活を送っています。が、実はこのように心の底

で感じておられる方もいらっしゃるかもしれません。「神様の心はわかりました。でも、社会の現実とは違ふのですよ、神父様。」これは多くの方々の信仰生活の本音かもしれません。

れました。イエス様は一人の犯罪人に、まさに人生の最期の最期の場面でこのようにお言葉をかけられました。「あなたは今日私と一緒に楽園にいる。」(ルカ 23:43)

しかし、キリスト者の祈りは、ご利益信仰を超えて、神様の計らいにすべてを委ねます。私が自信を持って伝えたい事があります。それは、自分ではわからなくても、やはり祈る前と祈った後、ミサに与る前と与った後では、私たちの心は確実に変えられているということなのです。イエス様が十字架につけられた時、二人の犯罪人も同じように十字架につけ

神は、私たちの人生の最期の瞬間まで、ご自分のもとに立ち返るのを待っておられます。神は何を望んでおられるのか?その事を思いさえすれば、私たち一人一人の過去がたとえどんなものであつたとしても、また新しい一日を始めることが出来ます。この神様の計り知れない愛の計画にどうか心から信頼して、すべてをゆだねることが出来ますように。

- ・A4サイズがすっぽり!
- ・透けない素材
- ・肩掛け余裕◎

〈お問い合わせ〉

wyd2023.lisbon.dp@gmail.com
(WYD2023リスボン派遣プロジェクト)



先日、大阪大司教区と高松教区が新たな教区となる設立式と、大司教区初代教区長となった前田枢機卿の就任式に参加した。教区が統合されるといふ歴史的な場面に遭遇し、感動した。み